

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 高校生インターンシップ推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 総合支援第二係 電話番号：058-272-1111 (内 3679)

E-mail：cl7782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,377 千円 (前年度予算額：2,377 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,377	0	0	0	0	0	0	0	2,377
要求額	2,377	0	0	0	0	0	0	0	2,377
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

高校生が一定期間、企業や商店等で就業体験をすることで、働くことの意義や将来の生き方、進路について考え、働くことに対する望ましい勤労観・職業観を育成する。

(2) 事業内容

①対象者

県立高等学校生徒

②期間

専門高校等 3～5 日間 普通高校 3 日間程度

③実施予定生徒

県内すべての県立高校(63校)

④実施先

建設業、製造業、卸・小売業、サービス業、金融業、病院、福祉施設、保育所、幼稚園、図書館、農家等

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役務費	2,377	インターンシップ賠償責任保険料
合計	2,377	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針1 りふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

目標2 地域と連携したキャリア教育の推進

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
県内すべての県立高校において、インターンシップが体験できる体制を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				(前々年度末時点)		
インターンシップ 実施校	(H)	63校 (H29)	63校 (H30)	63校 (R1)	63校 (R3)	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - （1）インターンシップ実施計画書の作成
県内の県立高校63校が実施計画書を提出
 - （2）賠償責任保険の加入
実施予定生徒9,053人に対する賠償責任保険料を実施校へ令達
 - （3）インターンシップの実施
実施期間
 - ・職業に関する学科及び総合学科：3～5日間
 - ・普通科、理数科、英語科、音楽科、美術科：3日間程度
 実施先
 - ・建設業、製造業、卸・小売業、サービス業、金融業、病院、福祉施設、保育所、幼稚園、図書館、農家など

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
インターンシップ実施予定生徒9,053人に対する賠償責任保険料を実施校へ令達し、インターンシップ実施体制を整えることができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	働くことの意義や将来の生き方、進路について考え、働くことに対する望ましい勤労観、職業観を身に付けることにつながるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	県内の県立高校 63 校が実施計画書を提出し、現在実施中である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	実施計画書の内容を精査し、インターンシップを実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 平成 25 年度より学年進行で実施されている高等学校学習指導要領において、「産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設ける」ことが示されているため、インターンシップ実施希望者が増えても円滑に対応して実施する必要性がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内すべての県立高校において、3年間に一度はインターンシップが体験できる体制を維持・促進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	